

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上徳存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

天上天下唯我独尊

— コロナ禍中 —

住職 村上 徳 存

季節は移り変って、四月
春陽の過しやすい頃とな
り、桜の花の美しい行楽の
時でもある。

四月八日は、お釈迦さま
の御誕生です。二千五百年
の昔、インドのルンビニ
園で生まれられた。お釈迦
さまは、周行七歩、「天上
天下唯我独尊（天にも地に
も我ひとり尊し）」と、宣言
されたと伝えられている。
人間として生まれたこと

が尊いということを宣言さ
れているのである。どの人
もどの人も、それぞれに尊
い命を持つて生まれられた
ことを言われるのであり尊
いことと思う。
昨年が続いて、コロナ禍
によって、寺内の様子も変
革し、それに対応していかな
ければならないことにな
った。
四月は年度変わりで、変つ
て良いことと、変ってはい

けないことはある。必然的
に新しいこと变つていか
なければならぬことも
ある。

僧堂の行事や、仏事法事
は、変らない部分であり、
事務・受付は随分变つてき
ていると思う。

修行僧達も、所期の目的
を果し送行して、師寮寺に
帰り、新天地で寺務・法務
を励む者もあり、又、仏國
山に新しく修行に入門し
て、修行を始める者のある
ことは変わらないことでは
ある。

二月に、駒大の同級生で、
畏友、岩手県宮田師より、
ちよつと一言という百余の
小話を集めた「話の小箱Ⅴ」
もお送りいただいた。その
中の一話に、「人間は、何
でも欲しいという貪りの心
を持つている。古歌に「幼
子が次第次第に知恵つき



お釈迦様（誕生佛）

て、仏に遠くなるぞ悲しき」
と詠まれているように、純
粋無垢な心で生まれてきた
にもかかわらず、様々な知

恵が知恵をよんで、清浄無
垢な心の中に煩惱がうず巻
き、物事を純粋に見ること

ができなくなり、迷いの世
界に入ってしまう。こうな
らないように、常に心を落
ち着けて、清浄にする訓練
が必要である。心の大切さ
が叫ばれて久しいが、一向
にその対策は為されていな
いが、心の開発とは、人間

が人間として人間を生きる
ことだと思う。」と話して
おられる。

コロナ禍中で「人間が人間
として人間を生きること」
は大切である。

お釈迦さまのお誕生に
「天上天下唯我独尊、天に
も地にも我ひとり尊し」
と宣言されたことは、尊い
ことを生きたことであ
り、変つてはならないもの
であると思う。

テレホン法話 (〇八九七四一・〇〇三三)

禪のたより



◆ 別れの季節

三月は和名で弥生やよいと呼びます。その由来を調べてみると、「本草きくさい弥いや生おひ月つき」という言葉が詰まって「やよひ」となったという説が有力なんだそうです。この意味は草木がいよいよ生い茂る様を表しています。とはいえあたりを見回しても草木はやっと芽吹き始めるころでまだまだ生い茂るという様子はありません。それは新暦と旧暦の違いによるもので、旧暦三月は新暦四月の中旬頃になりますので草木生い茂る月も納得できます。翻って新暦三月は旧暦二月頃にあたり、和名は如月きげいと呼びます。いま頃はまだ寒さも残っているの、衣きぬを更に着る月であるから「衣更着きさらぎ」とか、あるいは草

木の芽が張り出す月であるから「草木張月くさくさはりつき」などといわれることが由来のようです。

いずれにせよこの時期はながく厳しい冬を越えてあたたかな春にむかうよろこびの季節です。しかし同時に年度替わりのシーズンでもあり、月を通して卒業式や送別会が行われ、会社勤めの方も人事異動があったりと別れの季節でもあります。先輩や後輩、親しい方やお世話になった人を送り出したり、あるいは送られたりと立場の違いこそあれいままで慣れ親しんだ人々と離れることは寂しいものです。また人のつながりは良好な関係だけではありません。苦手な上司や仲良くできなかったクラスメートなど、人の合う合わないということもあるものです。

しかし春の力強い芽吹きのような新しい出会いを清々しい気持ちで迎えることができるように、別れの時に悔いを残したくはありません。苦手だ嫌だと思っていた人にも「もう会うことはないかもしれない」と思えば優しい気持ちになれるでしょう。少し勇気を出して話してみると、意外な出会いとなるかもしれません。

お釈迦様がご自身の臨終に際して弟子たちへ残した言葉に「会う者は必ず離れることあり。憂い・悩みを懐くことなかれ。世の相かくの如し。まさに勤ねんごろに精進して早く解脱を求め、智慧の明あかりをもて諸の痴おろかの暗やみを滅ぼすべし。」とお示しになりました。春夏秋冬の季節の巡り合わせのように、わたしたちの営みも出会いと別れの繰り返しです。ところが、わたしたちは出会いのよろこびに心を弾ませこそすれ別れの悲しみをすすんで考えようとはしません。しかし出会いがあれば必ず別れ

の時も訪れます。だからこそいまこの時の積み重ねを大切にしたいものです。

瑞應寺専門僧堂

侍聖 角一 大樹

令和三年三月一日〜十日

◆ 放てば手に満てり

当寺のお檀家さんで、刃物を打つ鍛冶屋さんとして大変有名な方がおられます。先日、その方のお母さまのご法事の折りに色々なお話を伺いました。

実はこの方、ある技術を習得するために大変なご苦労と研鑽を積まれたのだそうです。お祖父さま、お父さまと代々の鍛冶屋さんの家に生まれたのですが、鍛冶屋を継ぐつもりはなく、中学校を卒業してすぐに大工さんを志したとのことでした。

最終的には、お父さまの跡を継いで腕を磨き、鍛冶屋として立派に生計を立てるまでにはなれたのですが、それだけでは満足せずに、さらに極みを目指して刀鍛冶

に入門を願ったとのこと。しかし、簡単に入門が許されるはずもなく、何度も何度も断られた挙げ句、ようやく鍛冶場に入ることを許され、様々な書物を読んで研究したり実際に何度も打ったりと試行錯誤を繰り返して、今では、その方にしかできないという特殊な伝統技法を習得されたのだそうです。

私は、この方がその技法を習得する為に、ひたむきな努力を続けられた事はもちろんですが、何より一人前の鍛冶屋であつたご自身を更に向上させるため、我を捨てて頭を下げ、入門を請われた姿に感銘を受けました。

禪の教えの中には「我執がしゆ」という言葉がよく出てまいります。自分自身に執着するということ意味で、自分自身へのこだわりのことです。今までの経験や実績は自分自身の糧となりますが、それにこだわりすぎると、自分自身の成長を妨げかねません。また、あまりにもこだわりが過ぎると、

周りとの協調が取れなくなることもあります。

禅の教えに「放てば手に満てり」という言葉があります。その言葉が示す通り、手の平を開かなければ手は自由に使えず、新しいものを掴むことも出来ません。皆さん、その手にこだわりを握り込んで自分自身が縛られてはいませんか？
こだわりを握り込んで、自分自身を覆い隠してしまっていないでしょうか？
手も心も大きく広げて、さまざまな出会いの機会やご縁の輪を大切にしたいものです。

高知県予岳寺 濱田道圓師
令和三年三月二十一日～二十八日

◆ フィルターを

取り払う

昨年暮れ、お歳暮を贈ろうとお檀家さんが営む酒屋さんに伺った時のことです。奥さまに助言を頂きながら品定めをしたり、宛名を書いたり、包装をして頂きながらお話を

させて頂きました。

その酒屋さんの奥さまは東京生まれの東京育ち、ご主人と巡り合うまで東京を離れたことはなかったとのこと。東京でご主人と巡り合って結婚され、しばらくは東京で暮らしていたのですが、ご主人のお父さまが体調をくずされたのを機に高知に帰られたのだそうです。

「慣れぬ田舎での生活で、さぞかし気苦労も多かったでしょう」と伺いますと、「やはり初めは大変でした」と仰っていました。

奥さまに「どうやって高知の生活に慣れましたか？」と伺いますと、暫く考えられた後、「そうですね。好きになることにしました。」と答えられました。

そういえば私も、高知県に赴いた当初は、慣れぬ言葉や慣れぬ風習に、心の中にモヤモヤとしたイヤだな、面倒だなという感情を抱えていました。しかしある日、落ち葉掃きをしてきれいになった境内を見たときに「そ

うだ、このままでは、いつまでもイヤなこと、面倒なことのままだ」と気が付きました。それ以来、小さなことでも、好き嫌いの垣根を取り払って取り組むと、いつの間にか、周りに溶け込めるようになっていました。

好きや、嫌い、というのは自分自身の心の中のフィルターを通して物事を感じていることであると言えます。心の中のフィルターを通して、好きな物には興味や関心を持ちます。好きな人とは近寄って話をします。その反対に、嫌いな物には無関心になります。嫌いな人とは距離をとります。

違った言い方をすれば、好きや嫌いという感情は、心の中のフィルターを取り払うことで、その感情を切り替えることができるというわけではないでしょうか。心の中のフィルターを取り払い、身の周りの些細なことにも関心を持つて生活していると、気づかなかった喜びや感動を得ることに

繋がります。普段あまり関わりを持たない人とも交わりが出来れば、新たな学びやご縁ができるかもしれません。それこそが、恵みのある豊かな生き方ではないでしょうか？

コロナ禍でソーシャルディスタンスが新たな標準になっておりますが、心の距離だけは離れずに過ごしたいものです。

高知県予岳寺 濱田道圓師
令和三年三月二十一日～二十一日



修行を終え送行する雲水



■常楽会（おねはん）

三月十五日（月）、三十九年までの新亡精霊を供養する毎年恒例の行事、常楽会（おねはん）が行われた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、檀家様方の参列を御遠慮して頂く形となった。当日は村上山主導師のもと山内大衆・役寮のみで祇尊涅槃会法要を厳修、続いて読立供養。賽銭が飛び交う当地方独特の風光こそ見られなかったが、年明け続々と受付に來られた御遺族様方からは、冥福を祈る多くの御気持ちをお預かりした。



山内大衆・役寮による諷経

読立 角一侍聖



■幼稚園卒園式

三月十八日（木）はひかり幼稚園の第六十八回卒園式。三十九年の皆勤、精勤も含めて親も子も努力の賜物。

入園式は祇尊花祭りと共に祝い卒園式はお彼岸まつりの感謝と合わせて園児は巣立っていく。

■萬霊塔供養

三月廿一日（日）、当山西墓地の永代供養塔「萬霊塔」法要が行われた。当日は雨天の為、瑞應寺法堂にて、村上山主導師のもと、参列者と共に、諷経し諸精霊を供養。



萬霊塔（永代供養塔）

三月の日鑑

- 一日 祝祷
- 七日 日曜参禅会
- 九日 参玄会（十一日迄）
- 十五日 祝祷
- 常楽会（おねはん）
- 略布薩
- 十八日 観音講・勉強会
- ひかり幼稚園卒園式
- 廿一日 萬霊塔
- （永代供養塔）供養
- 卅一日 略布薩

四月の予定

- 一日 祝祷
- 四日 日曜参禅会
- 六日 参玄会（八日迄）
- 八日 祇尊降誕会
- 十五日 祝祷・略布薩
- 廿一日 春季金比羅大祭
- 卅日 略布薩

銀杏感謝録

- 埼玉県 小林和子殿
- 京都府 谷口法衣佛具店殿
- 山口県 保福寺殿
- 大阪府 松田志保子殿
- 宮城県 東禪寺殿

●刊行本案内●



道元禅師

学道用心集講述

植崎一光老師 著

A5判 三三一頁

二千円

*お問い合わせ、お申し込みは瑞應寺受処まで

電話

（〇八九七）四一・六五六三



鐘 声

季節が春へと移り変わり、過ぎやすい季節になりました。新年度になり、入学式や入社式といった新しい環境になる方も大勢いることと思います。

瑞應寺でも、新しく修行僧が上山してきました。

新しく上山された修行僧は、日々の修行生活が思うようにならずに苦労している様子で、また先輩の修行僧も、どのように教えるといいのか悩んでいる様子です。

新到、古参共に日々切磋琢磨して行を努めています。

（令和三年一月廿五日受付迄）

